諸物名所巡覽圖稿

四

ル 4
3541
4

文榮堂

昭和十六年一月十二日寄贈 尼野貴美氏

日文研 3541 4

播磨名所巡覽圖會卷之目錄

御着驛 日名撮　牛堂山國分寺 本堂 開山堂 五智如來 金毘羅 薬天 観音堂 鎮山天神 牛頭　壇場山

德證寺　御地蔵　印釋ノ河　神明宮

勅使　市川　御靈河　乃辻塚跡　姫路城 姫山

惣社大明神 本社十六社 一宮 二宮 羽束姫 人丸社 角ノ宮 金毘羅 庚申 稲荷 地蔵 神水 神供石 神輿 紅白松 八幡 月隠 時祭礼行列之図 荒神 天神 神明 薬師 くろ石 神社辺塚 府中深淵 寺中多多 魁石

逢松原　刑部大明神　皿屋敷　梅雨松

月岡 上地沢　日月河　雄山 長尾山 大歳社 天満宮 竜君山 十二石 時況

慈恩寺　茨岡長者宅地　傾城淵　姫塚寺

手枕堂　國府寺故墟　苅田故墟 古墳 横穴墳　國府渡

紀陽德本寺　心光寺 足田氏石塔

玄日明神　三九郎門渠 羽林塚　歯神　雲見川 雲見塚

紀矢明神
會松原 矢乃浦
千濱塚
大日ノ森
妻藤孫三郎墓
弥磨津
清水
孫三餅
若一皇子權現
星田若宮ノ
高松寺
亀井寺弘

本庄 日明神
松原八幡 大発祖
麻布山
東社八祠 御産石 新白石 孤石 女夫石
妻藤
妻藤川渡
濱天神
御幸橋
日猶夢
羽山古城
白國大明神
人見塚
大歳祠
風羅堂 義塚

赤山稲荷
宇佐神惠美酒祠
地名接尻 紀ノ紀菊 麻生神社
堀田牟 紀瀬
八重榊山
國府山古城
遠川祠
飾磨寺遺跡
石室
乙子堂 念佛堂

僧位山 中堂 護摩堂 經堂 弁天女殊堂 観音堂 左子堂
山王 開山堂 開蹠井 薄樓 政所 桃原墓
廣峯牛頭天王社 三大神 八王子社 白幣社 軍厩 地蔵社 天社
又社 濱王不 冠者殿 九郎神社 奥院
廣峯古城
白幣山
弥高峯
古山八幡
亀山本徳寺
御田植神ノ國
誉田明神
鶴田ノ社
甲山神社
八葉神社
若居寺遺跡
竹編
衆田祠
三和大明神
神社橋兵庫神社
御石清水
平地ノ里
高岳神社
手柄山
書
山
御舟隈
書山社
御舘
濱濱ノ澤
稲園ノ社
妻凡園
美若川
稲園
秋書淵
妻山
飾西ノ澤
美寺藤師
秦武德ノ
大歳社
実法寺
一ノ宮神社
網敷天神
加茂ノ社
天濱宮
英賀城跡
白牛

簑寺
女人堂
札納石 念佛堂 護王石 後鬼 天祢 底石岩 鳥帽子岩
文殊堂 中田墓 滝頂水 釈迦堂
不動堂 両天護王 奥院 武部墓
揖保
黒岡明祢
楽〻天祢
極楽寺遺址
揖保清水
揖岩城址
二王門 於勢堂 聖霊祢宜 釈迦堂 弱竜杖 檀特山
接樓 富小川 泰田明祢 蹄石 七枝
糸乃井
ゑうゝ井
阿家祢社
八幡宮
小山田高家書表を刈る地
金輪山小室
栗郡寺
揖保川
熊見
宮浦城址
朝日山大日寺
書写山王院馬場
車寄
来迎石
茶所
書写山圓教寺 如意論観世音 糸菱井 釈迦如来 阿弥陀堂
坂本城址
水田城址
同天祢
竹川
根本寺
古田寺
平家釈迦 某陣 観音 三層塔 山王社
班鳩寺
松尾山観音寺

鶴之山大光寺
松寺
丁村
陳屋
化粧坂
家鴨
天満宮 山王祢宜 隆家塚 飯盛山 天祢泉 観音塚
家鴨祢社
赤坂清水
家鴨
吉浦 宮浦 丹ヶ塚 松塚 鞍掛塚
相地石鞍
白名園
小夏塚 とどーま 八畳岩 長谷浦 隆塚 坊勝塚
加塚 大塚 大塚 揚ら塚 松塚 佛岩
峯相山鶏足寺跡
破鐘祢社
凡早岩 大黒岩
稲根
杉天照祢社
沖塚
法華寺
大塚村
林田陣屋
岩屋城址
一筋川
白井水
疫寺
丹枫
祝田祢社
水仮女 姫谷窟 長の松原
龍眼水
毘沙門山
八幡宮
陸岩井
忘れ
松山城址
紫摺城跡
彩宮陣屋
久本彈
依羽雅次墓
塞山城址
佐見山
那波山祢社

とと地森　嶺渡　鍬郡淳石塚　亀の山

唐猫谷　花頭清水

摂津名所巡覽圖會卷之七

御着驛

御着村と云若花山法皇書写山御幸の時宮ゝ御着ゝ給ひしと云又祈功皇后の御着ゝ給ひしと云ふ

祈功皇后山の御着ゝ給ひしと云ふ○村中天川大歳社あり西法寺と云寺あり延命村の古地なり

御着古城　村中より遠流あり村上源氏の末裔なり天永の比祈功皇后の居城なり

牛堂山國分寺　牛寺と云　三社庄國分寺村にあり　記十五代聖武天皇十記年天平十年詔して國毎に國分寺と建るゝ云續日本紀曰毎國の僧寺封入十戸水田十町を給ふ尼寺には水田十町僧寺には元二十町ゝ〳〵しめ寺の名を金光明記天王護國寺と號し尼寺を号て法華滅罪の寺と云ふ國

寺記曰南大門より奥院までの弓南北二里余東院西院乃同東西六十余町なり

南大門より二十町下の三地乃二階堂と云是之本尊薬師如来長四御あり

奥院は八幸畠の長谷なりて本尊観音東院阿弥陀大日山乃物見之西院は市場

よりて本尊薬師如来なり本尊の像は六尺の薬師佛之釈迦阿弥陀

十二面大威徳明王天十二体なり又寺内之七佛の薬師あり

しかれども乃大寺なれども上の後と遠寄あり年中約四箇月掃除〳〵乃ふ又別有考

の五九之堂上〳〵て甚後一りと建今のぶ〳〵地面之大礎の残りあり甚多〳〵

國分寺

牛若ふく号けしの
寺の東の宮ふるふよう
霊牛ひろ凡國まる
遊宴の時大まる拙
本ぐとゝまる此
牛ひとりしまう
そゝびまろう
寺池まんえう
巻相坂関寺牛
の語り故まる
月ゝし栄花物
ゆうゆうの月の
巻、関寺牛佛い
伽藍佛の化現と
して人まる
絵ぬいま
うまる

あま
聞しまう牛と
心とうみまう
ゝを獄ぬ
あゝ城の実

牛内ゝ牛の
縁あり幼年
ひやと滞ま氏
法度を
浮くゝ
ゝ

牛塚 國分寺より巳午の方小田の中にあり是むかしの寺内にてかの霊牛を葬りしところといひ傳ふ

壇場山 寺の東北にありて里人これを塚といふ又今廃乃薬師あり 又俗に藥師を信徳に神功皇后三韓退治の時祈らせ給ふ壇場也ともいふ○是は上の子壺の條に弁ぜし如く古への山陵にて壇場の名信じがたし○又國分寺造営の前には神功皇后又上宮太子の寶を入給ひて霊地となされたるよし縁起に見えたり

徳證寺 御着村にあり是昔の國分尼寺の跡なりといふ一人の尼蓮如上人に帰依して一向宗となれり 緑世

御野庄 此辺より十ケ村 浄乃庄名なり 俗傳に神功皇后錦旗絵を立給ふ所にて錦旗野と号け今は三野庄といふ又御野庄とも書之 是神功の故事ところは非なり

武玄高光の狩場といへり読み文字のその雪の曙などよめるは今牧方の禁野のこと惟喬親王の狩場渚の院の歌に

きじなく絵野に若きちをえてあそびまたいひさ結て見ん

印鐸祠 三眼村の氏神也神功皇后御凱陣の旗の絵を祭るといへり 此歌は名所なしいふは旗の名を地名に上絵中絵といふによるべし

按に印鐸は兵軍令の鐸也本鐸金鐸あり今に鈴着などの類なる絵といへり の即鐸なり兵飾に用ゆる物にはあらず鐸路の絵も帝より将軍に給ふ名の印也 日本紀垂仁十五年鐸石別命といふあり○此山の上を八重鉾山といふ

神明宮 山脇村にあり祭神陽神 垂跡の本地は大日如来実は両部童子八大金剛の図なり 神佛の混淆年久しく却て奥ゆかしく深く是を改むるに益なし 僅浅の口称と謗る

勅使 村号也小川村の南にあり當時むかし勅使家に止宿し給ひしより此名ありとぞ 一書に寫山の勅使の跡

市川 國衙庄市の郷の源は但州より出て神東神西の二郡を割り來りて流合して姫府の小中島より二流となり西を妹背川といふ市川は姫府の東を流れ妻鹿村の南にて海に入

夫木 氷とけあるくそ見ゆる市川はかのくちなし波のたてはありけり 讀人しらず

御霊社 同市の郷にあり 祭神 神功皇后 應神天皇 猿田彦 大歳神 小名彦

俗謡内にて神屋天神といへる元来お名なり末は松本天神と号て當国九所の別宮一宮延喜年中御霊社に合せ祭る○村中に國分寺の古礎あり

道辻塚跡 今姫府の惣社に古祖神として祭る 是はむかし此所の西に在り

今川了俊九州に往紀行 道ゆきぶりに

そこより南に向ひたる所を國府といへばかの國府の里よりおちこち道は坦にしてまかせ行に西向くみちより阿弥陀とかいへる川の辺り近く石の塚一ツ作り是は神の坐せる所なり出雲路の社の御前なる物のかたちも一ツ二ツえらびしを何ぞと問しかば此道をはじめて通る旅人はまさしく是を尻ぞ見と名付て石の塚とめぐりてのち男女のちぎりのまじはりして通りけるとしかたいひたまふるをき給ひしを又漸や此神の本社は種進き所の海の中に立給ひけるが御かりそめに遊びたまへる旅所に御社の事なき

市川

作るこるんやりたるなるやなるべし

はえ文きく神代のこころれまくだひをうに樫の流れしこし

此記文をたりれるるい玉〜主うう大中ふいさう紀とたて川のかくりと書うるこの
川い今いに城下の町神谷久長町〜〜入るたうりいを川の埋見沼とそ通過のま
尚飾摩まもあり帰せるべし

姫路鎮城 姫山城あり 古城もい村上帝第七乃皇子異平親王十五世の苗裔
赤松橘磨守則村 法名心二男繞義守貞範 法名貞世 初め い後醍醐帝ま後
いえ弘のに嘗被を姫山ま構へく宮み居に是宮初のまえ厥后蓮武
のにすり足利家ま属〜一族小寺相模守教秀同代〜〜て尚城と守
護に教秀ぶ長ま小寺義兵衛尉景治に豊後守景重嘉吉元年
ま赤松満祐ま附陸〜本山城ま籠ま武功と旌し紋ま討記にこの附
赤松家彫滅〜尚國い山名宗全ぶ死ぶ為ぶ意仁元年赤松政則
尚城を奪飯〜迦宮ま移る文明元年播山ま彩城を築き是ま
移り此城と舊例ま任せ小寺伊勢守豊職ま守らせ其ま息加賀守
則職い永正年中置塩り幕下浦上が叛逆ありて備州の城ま籠るし

時則職い討手を蒙り備州ま抜き合戦〜敵陣の計略ま論じて終り
討死に嬬ま英濃守職隆尚城護る次ま小寺官兵衛孝隆守護に天正
五年ま列て織田信長ま平天下の附尚國と秀吉ま編入三木別所と
職〜て後此城ま移り給ひ日八年ま英賀城を隔〜日九年ま毛利が
出城因州鳥取城と落し姫山ま三重の殿と築後ま尚國日十年六
月二日明智日向守光秀信長を弑に依る尚城い羽柴小市郎秀
長ま護〜め上洛ま〜光秀と滅〜日十三年天下一統創業あり
秀吉長い和州ま移りて大和大納言ま任に尚城い本下肥後守宗治
守しめ日右衛門佐勝忠城番ま為る郷て秀吉ぶ仕に城を保ぶ〜
武威異國ま及し政姫豊臣と号し関白を歴〜吉國ま昇進給へ
依之日本乃諸侯処地と変改り慶長ま年ま池田少将輝政ま尚
國と編り播磨三州の大守ぶ 姫山の城郭に三村の家臣
宿村中村國府寺村老の輝政入府の後に三村と都て姫路と号に 姫路城と

惣社伊和大明神
摂社十一社
内 般若坊
巫女 一人
外
九社の
位階の
社家

惣社十六社

其八二

即尚城を再造して高さ六尺慶長十三年始めて五重の天守を築き九年にして竣功ス城外七十八町を割拓して東西三十六町五十間余南北二十間余東い橋本町西い龍神町六丁目南小世三町城内に市廛町と称べる民住す敦賀城記

敦山 今の城山の名あり敦賀城記に左に右に一位の山は西に男山あり是を剣山と称す国府城寿国府寺氏家譜曰系紀帝の苗裔角鹿大伝明雄が室と宜敦賀城記

惣社伊和明神 敦賀郡惣社伝士所 **祭神** 東殿五十猛命西殿大己貴命中殿九柱神 **社傳** 曰人皇二十七代清寧帝天平宝字七年当国の一宮に為 **郡社軍戦勝利** を祈願せし時大己貴命水尾山に降臨ま国の一位を授け奉り国幸祀あり九所の霊神を併せ祀る郡本の地に遷座す今東に門内慶安遷 其後寛和元年二月廿三日

草上郷村摘岳豆神社（神名帳ニ出）二座の内五十猛命と併せ祭り二神一光の像あり同年六月十一日宗社を封し同十一月十五日延喜式神名帳播磨國五十座の神（大七座 小四十三座）を大己貴命左右に併せ額の銘曰軍八所正一位惣社伊和大明神と書り（軍八所と号するは諸軍神の祀る處又軍師軍帥なるによりて八ツの数の義をいふ八百萬神の祀る乃謂なり）に伊和と号するは宍粟郡一宮の郡下りえなり

當社例祭ハ十一月十五日にして続時祭ハ廿一年目に宍粟郡白倉山高嶺山華清山乃三山を象りて造り山を拵へ綺まて飾業木乃造り花と山毎に営之柴甚ありて猿楽三番寛これと勤る舊例あり是皆町々よりも出る例式之先當社の大祭にして厳重なる當國に比類なし又七月十三日より十五日まで神踊あり兵杖刀鎗を振て軍旅威儀を為し俗に修羅踊といふ又ホウデン踊ともいふ天平宝字八年異賊襲来の時後宗貞國将軍として追討し凱陣の時此社へ賽祭し是より恒例となれ（近郷十二村より之を勤む）又一説に池田輝政侯より始るともいふ延享元年六月十一日に祭禮

あり其時の城主松平義知侯の指揮なりとぞ

當社年中行事

△元日小方拝 ○元三盤若経 ○七日七種御供 子日かさしの松祈り奉る ○十五日御粥 △三月三日曲水餅あり △四月朔日出拂 神原の錦 笑子祭 △五月五日氏人兵具飾て祭り物六ヶ寺の僧盤若読経并に田楽書写山の衛若を勤む ○田楽祭八ヶの村民定むなし 花笠男ハ其笠標ようつかさどる △六月晦日後 童子撫祓の祓ひ茅の輪 △七月朔日童子僧宰のあてまの篇宴つかまつの祓び ○十三日より十五日まで修羅踊 △八月朔日餅織 △九月九日六根神事競合 ○中の亥日總ての祭三山の神事并に猿楽やぶさめ △十月中六日御霊祭 百燈 御禊くだり △十二月十五日煤拂 ○晦日鬼塚の舞 鬼てき小方追儺并に鬼石の御法

此外臨時行事 ○天神地祇の祭事 ○造山猿楽 ○飾磨の御禊童子のまひ ○神輪うけ ○飾磨御湯 ○雨祈 ○大神楽 ○水むすび ○居鈴（此外例日の事あまたあり）

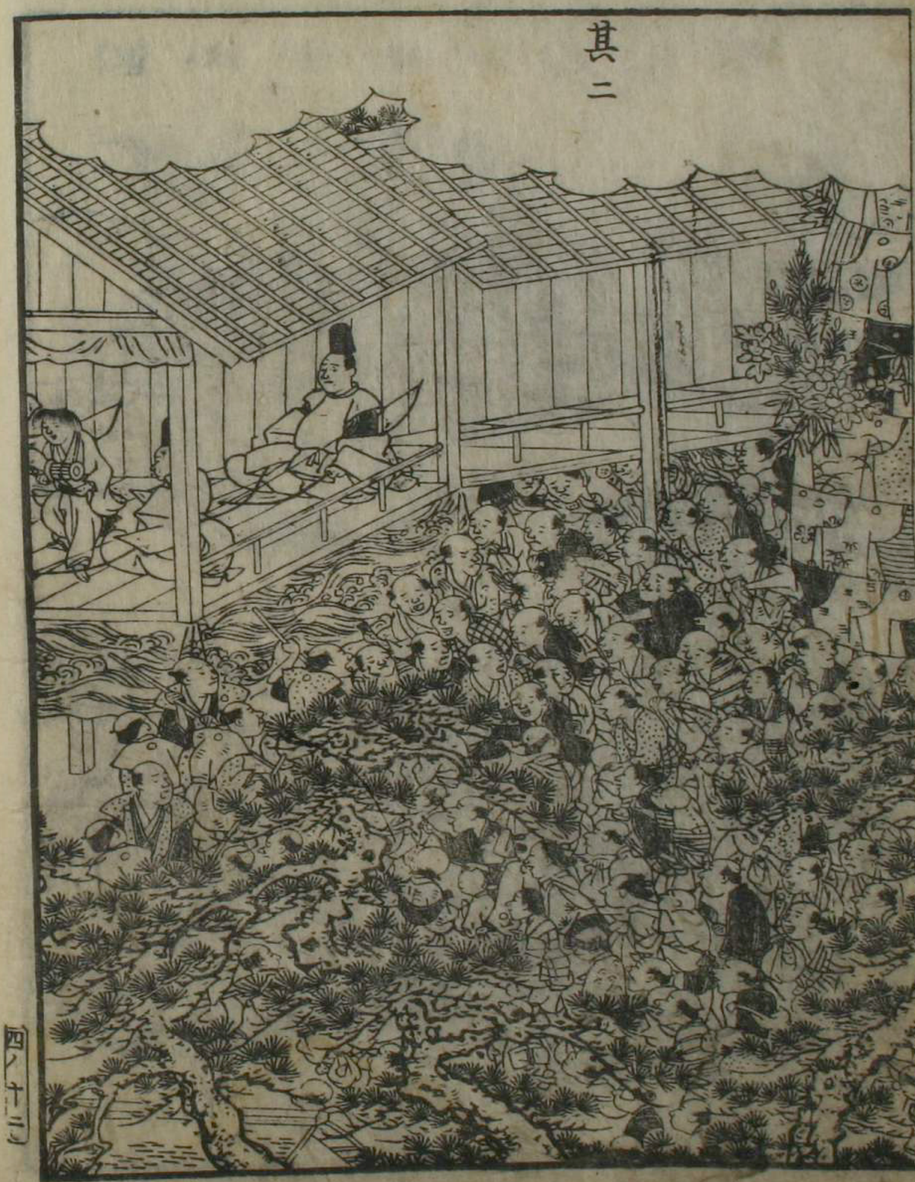
附

逢松原（八雲御抄播磨に入る）飾東郡宮岳師惣社一ノ宮居昔日在此所云云里民ヲノ松原と云

短百首

ながらへ深根てのこそるし御と今夜とまりぬあふの松ちら　顕季

右二ツの名所惣社の境内にあれども旧名なくてあるべし


其二

正一位刑部大明神 姫路城内九社の一 祭神二座深秘の神と伝て八天堂と号す

池田輝政の産霊神濃州刑部村大己貴命を崇て勧請ス 別当

般若院神を馬場氏御供所長源寺

武日世佐比神を老狐と云ひて妖怪をなす事恐るる者多し

堪こう寺草堂間に狐百歳を経て化魅と成て人の眼を惑し

子年の老狐魅と成て人の眼を惑し

つせを集解に美〳〵のこそ例を見るなり

ひさぐものたくんや

○刑部ハ延喜式に刑部省とあり

○上野澤

四十三

所名

日月祠 竹の門の外にあり 武日希女天〳〵濡るるの若い乙女

比祠高い通辺の祠のちうにあり 姫路城内九社の一

まくさびをを〳〵 伊勢諸侯録冊の二神 日月の神

清ゆ〳〵 女鞍之苔い社地も壮んなり 加茂の社の赤松 稲荷の社

みなく社司山氏五門 美濃角社 美濃真女巫の郷の小菅

雄山 古名 長尾山 この外にあり

熊神帝 玉依 三座 人皇七代孝霊天皇皇子若建尾命山に

其子長尾男命の居 居住ふ

大歳社 日本 祭神 雅産霊命 天満宮 日本池田輝政 愛宕山 日本

祭神 迎賓智 十二所 雅産霊命 侍所 祭神 名尾尊

慈恩寺 十二所の 寺号 観世音

義国長者宅地 二階所 居住 今ハ所人の

姫路寺 姫路城 寺号 義国の弟 傾城淵 義国の淵 中嶽洋

姫路山 称名寺 寺号 姫路神社 乙 拠野 山の麓

国府寺故家　姫路の町にあり今の国府寺氏なり歴代此地に住して国府と名乗三十代連綿として国家相続し[illegible]
家紋三つ巴八笹八ツ目附より[illegible]
古代明雄と号したりや赤松の代には国府寺右近丞家[illegible]
[illegible]

荻田故家　竹里村にあり又郡右衛門[illegible]
此家に伝へて御書及[illegible]
又播磨小大工五郎右衛門と記せり家に古記古書甚多し[illegible]

三神附近に古墨あり

底

五五寸七分
横五寸七分
ふち二寸五分
姫路国中と
相渡御渡い也
天正十八年正月日

播磨鍋　職人号合
名ふ〜鍋人の秋乃うちと播磨鍋ふたびみる月とるる

紅湯徳寺寺　姫路西の外町にあり紅湯を[illegible]
[illegible]

播州
荻田石納

[illegible]

量中
焼印

[illegible]

画像七高僧聖徳太子の御絵と安置し元和三年数如上人開基

心光寺　下寺町にあり正田泉紅蓮花

国府渡　白鳥川の下名村の東に白鳥川の今の橋の所より下流を[illegible]
町なりこれ古往[illegible]

名所

家集
[illegible]

春日明神　毎日の歌芝系にあり例系七月九日八坂の御[illegible]
馬場にて[illegible]
三月十五日八坂の御[illegible]

三尼清門渠　中条村より南へ二百間余中二十間又間の大池と両堤松林あり池田三尼清門の一
[illegible]

畜神　三尼清門堤の西にあり[illegible]

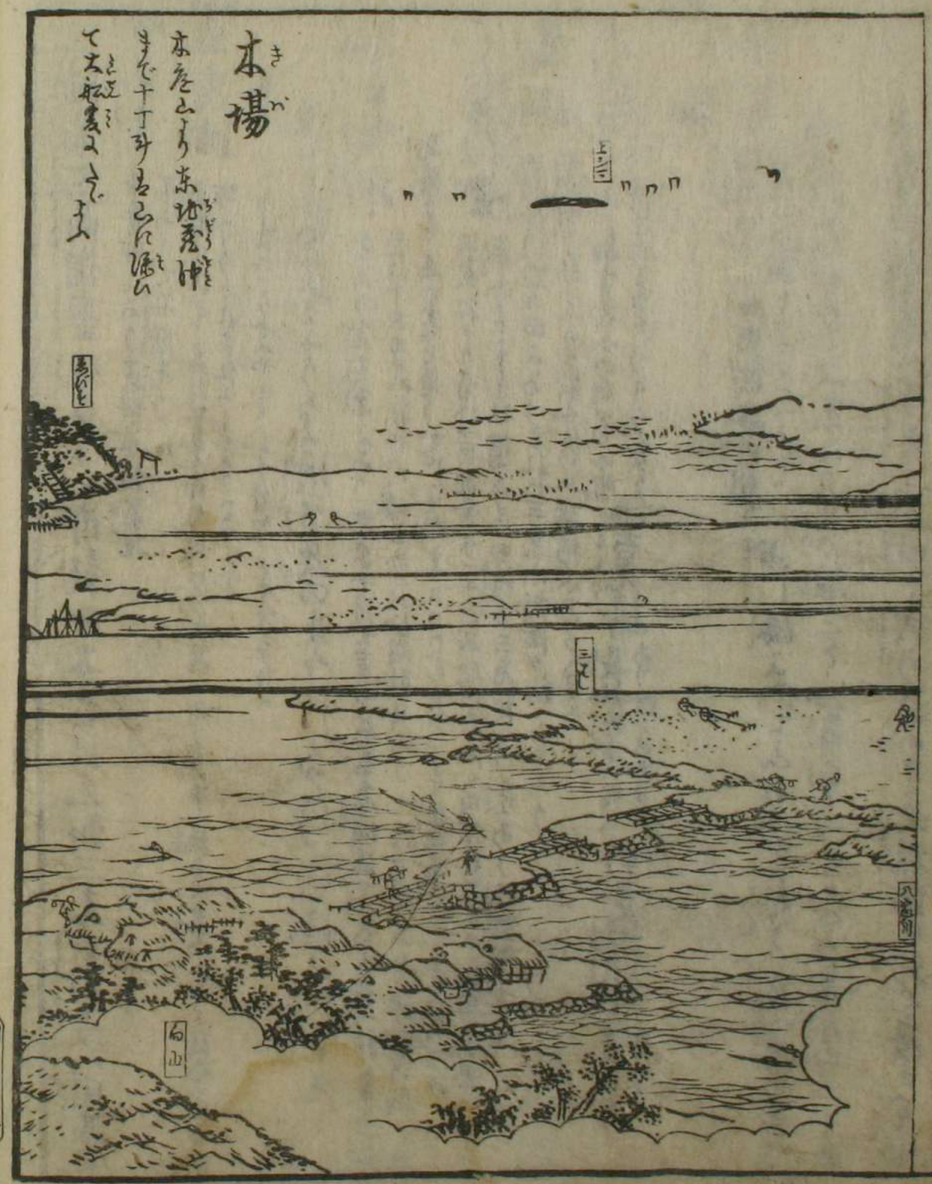
雲見川　今福中村中の間タツの町
[illegible]

雲見橋　長南延宝の間に[illegible]

[illegible]明神　矢篠村
[illegible]

[illegible]

本尾　的形のうち印南郡[illegible]
[illegible]
姫の御[illegible]山あり又本尾小[illegible]
[illegible]


木場
本屋ふとり米地蔵堂
まで十丁ヨリ五ちに
て大松寺えとゞく
上ノ宮
馬ノ宮
三ノ宮
八幡宮
石山

本屋社
金井山

み塩瀬と聞く所多く堙地となりて本庄より東南磯づたひに巡るに姫路の治所
山の下にいろ〱の岩あり又昔は材木乃出しかや永享年中飾磨光明
建立の材木を海浜に集むるに本場となしぬ〇八家川といへる小さき瀬を築き
て橋を渡して三ツ橋といふ室津へる船をして浜通りの往来の咽喉なり

家集 きのふはけふ〔…〕て雨のふりける〔…〕

をやみせぬ涙の雨はふられどもきえはとまらぬものぞなりける　俊頼

按るに永享の年と俊頼の時とはあまりに隔てたれども本庄の名考へあるべし

本庄明神

此地の生産神也祭神八幡 松原の別宮なり 元和元年本庄開発の長者三木久右衛門宗栄 別當小三郎 遷殿の男 造営は後壊の後宗栄に代の孫氏泰改造す寛保元年之当社記に委し 例祭九月十五日 宵宮は妻鹿より灯を捧ぐ数百人なり 六月廿九日御祓あり

東山稲荷

東山村にあり祭神五社 保食神 倉稲魂 十禅師 社司 白矢氏

〇宇佐崎恵美酒祠

會松原恵乃浜

松原村にあり 宮〔…〕松原西瓶宇佐崎中村辺の松林多し 若狭尾上のごとし 恵の浜の前東御若別府白馬なり又宮方親王などの舊跡あり

恵の浜八幡宮

社地甚広し 一名 松原の別宮といふ 昔は正月十五日競馬ありて当国の刺史例として魏〔…〕絶て又祭り今は絶たり 別当松原山八正寺 慈仁の乱の兵火にかゝりび永禄年中建立其後天正二年当寺霊山坊再建 年中行事は正月十七日射礼 正月廿日三大神相撲 十五日神祭 二月朔日より七日の間鬼会といふて悪魔鬼形の者拝殿に於いて花を散らし 八月若宮放生会 寺宝多し 太刀 旗 玉

皇の御寄附 三条小鍛冶の宝剣一振 虎の皮乃吉紙 奉納 國忠 社僧六坊 宮司 宗像
昔人八正寺の縁起は素應縁起とも書て二百年余のものにて慶円撰なし
大巌乃祠あり天平年中の勧請也

麻生山

三宅の庄奥山村の上にあり 神功皇后の故事ある所なり 当国の高山にして播磨の小富士ともいへり 昔麻多く生出しところなり 山路に地主権現を祀り 爺が桐殿に祠あり 是義應年中明星院といふ修験者の建る所にて行者堂の下に屈曲の岩穴あり 其中に清水あり 旱天に涸ることなし 又山中に梅雨松あり 旅客の物語し

麻生神社

山中にあり 大己貴命の旅と言ふ 祭神八幡三神 末社高良 三島 大将軍 住吉 若宮 〔…〕 薬師堂 大歳

山中に影向石 御座石 女弓石 千満塚 瓶石あり 舊華厳寺といふ寺ありて聖武帝勅願 良弁僧正の開基 今修験明星院守護し

堰田井

兼田村にあり 小坂宮ち川の落しを神田に入 水ひくこれ神田井の濫觴なるべし 兼田神田の

糸樋

桂木山と切りての間を切抜き兼田井の水をとりて通じたる糸樋なるべし

八重鉾山

山まき村の山つきにして 麻生山の辺之神功皇后まへに鉾を立給ひよりの名とし 縣がらくれ八重畑の潔り

松原八幡

木くし山
八幡山
手掬湾

人もれぢろき
もりと
もりぬるとば
岡うしめしき
恋の濱ゑ
和の浦
尚あふぎを
たのくや
こひの松ち
たげを
ちろん
駿河

大日本志料　明田村あり　此辺様なり　○新羅明神社　明田村あり　美濃の皇子を祀る　此辺様なり

妻藤　妻田村のうちあり　住吉より此村まで自丹の二藤出る　妻藤は此地より止り丹藤の

或曰丹藤妻藤の義信ぶべし　況九国号村号又笠の字藤の字乃付初度

古代日本の大字仮いまゝ仮名書して字を書とうるとうれば藤の字

を書なりしこそ強て藤の故なりとは定めがたし　若此村号より此逸の名と法

みいで妻藤藤間英藤とうべして藤間の中なれい間ゝらい英い書ヲヲ

通をれば色男藤ともいべきやいかゝ　此に菖藤らくもありとゝ

み書い藤間英藤ともみ国府之とは月久々

国府山古城　三地妻藤村みあり　妻藤孫三郎貞祐　初の基藤　の居城之元来此人い九

州の産之若冠より大力者あり　て甚上翰略と時め兵術と組織

て百方の賊と指麾をなゝ常中まあり元弘の比武者修行をして

海内を巡り赤松の幕下之屬ゝ凡牙の臣ゝなり文和の戦ひ之数度

の軍功と旋ゝ武い欲兵と捕へゝ礫としい大木と抜て敵軍を討

戦ゝ勇威英雄比類なし　此時の人人中の虎とぞ呼たりまし幸累

て天正八年乃比い小寺官兵衛の居城と成り此人い字義源氏乃後

裔黒田判官俊基卿　高満ゲ未孫下野守重隆当国多可郡之止住

嫡男官兵衛尉い姫路乃城之居濃守職隆の養子となり姫路城

天正五年羽柴秀吉之当国之入給ひ　此時播東之陣して妥二の懇志を

運び給る其後別而長治と関戦も小寺官兵衛三木城の案内者と

ゝ忠貞数ケ度み及ぶ長治戦て後秀吉三木城之移り此小寺日

此地要害堅固乃名城ゝはやせども山嶺累ゝて偏僻乃地之又姫

山城い小い重山巒ゝ　南之い海あり　私の自中兵粮の運送心の便之

是ゝ師の居所之秀吉ゝしよ諸ゝて姫城之移り給ふ小寺ハ此国府

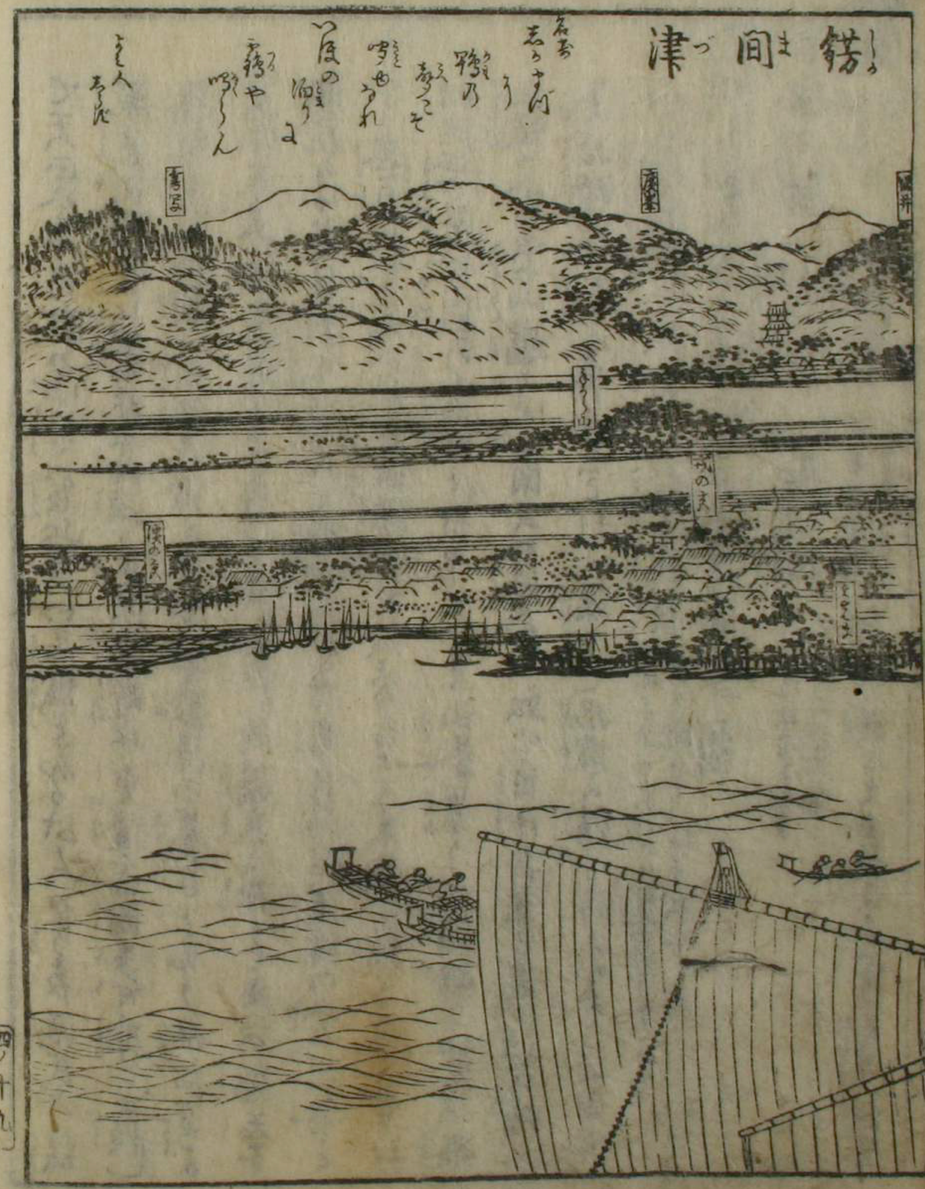
山之居所構へ数度の勲功を旋ひ　孫三郎ゝ妻ハ山の藤の田の中之あり　姫路城　秀吉の築造り給ふ詳ゝ

黒田氏墓　国府山の藤にあり小寺英隆等墓碑あり　て築恒蔵なり

妻藤川源　市川の下流之　遠川河　川西阿波村之あり　条非大臣美命

飾磨津　飾磨市　古書の民藤国　古人乃湊ゝて古歌之よゝ　元若ハ飾磨

錺間津



とゝの飾磨一郡のみ之を内湊・弘付などゝは事も多くて名の紛るゝ事
上の妻屋の条にこゝに古へは妻屋英賀と不在ちうるゝはみゝ
後世事用繁くなる小付ていは否そこゝ分ちいゝゝ其例多し今も
通転多く出入し交易農工商を使へ渓舟も多く奥市は一日に三度あり
同所なる小果世の家多し飾磨の市は活が納言枕草紙八雲御抄に見
へて第一名産とて貨ものゝ日本紀弘仁系記弘計王條歌に角酒餅番
市に出て買ものゝ餅番人日本私紀三日高麗人餅番の市に来て
角酒嬢〜附の人競ひて賣さ價とれてりしゝ也英賀日記に
市場ものゝ〜への名の紛りうゝ英賀妻屋同所の一名不ゝと知べし

名所

飾磨川　古へは大川と今は雲見川ものひて通転のみは後世に極るべし
市川をものゝ〜もゝり市あり石ゆゝく名づ
まゝ川海の漁に出る志らまゝの絶ん日にこそ我恋やまめ　万葉集

名所

飾磨搗染　岩澤細江町に紺屋多し其中に昔は古代より和漢の布も
みべらしと染法今精く伝へる家に按るに只いく度も藍に染ちて
白りて搗く唯なく染る物べし〜白りて搗とかゝらん餅と搗飯と
まて知所に濃き藍染のみ歌にそもろべし

我恋にはいそもてこそまさりなれ　通証
彩絵
たのまゝは志ら波のかゝりのみこそあいそもてこそ染なれ　後撰
彩六
志ら波のもゝまゝ小俣る藍高いろあるうちの濃深せんこい　後撰

天満宮　渓の天神にゝ飾磨津にあり近世此渓にて此所にて
此所は河に納ものゝ今は在所に樓門大きなり
飾磨寺　迎賓　也之○峯相記に飾万郡法あり村寺法の妻屋延長山飾万郡寺
清水　美仰の儀にあり十水の外ものゝ〜しゝ美仰と安居院あり美仰寺ものゝ一丁斗
國中并二之近世猛遠ものゝ分安て猪構に　天満宮　夷村にあり〜〜の我を宗ものゝ
第義多〜古持あり○古俣あり　名奥猛場の神之境内川ものゝ

御幸橋　市幸町雲見川のもん架ものゝ志ら山院ものゝ
白川法皇ものゝ
道辻河　市中にあり河絶ものゝ　此河のものゝ
今幸の神ものゝ

入るものゝ若い社も大きくて年の事ものゝは男女陰祇の供物と使へて里民
の男女名色男色のものゝ此祥殿に歩ものゝ入〜戸と閉ものゝ閉ものゝ
又宮守ものゝ所の鈴ものゝて後ひ〜其枝ものゝて妻妻を撰ものゝ勝とおもて長屋
乃吃ものゝ尚さるものゝ〜ものゝ曲勧ものゝて祇ものゝ今いものゝ入ものゝ絶ものゝ

孫三餅　市中にあり今ものゝ之昔候家の奴僕ものゝ此餅ものゝて嗜ものゝ
もとよりもものゝまものゝ海の國ものゝ志ものゝ此ものゝ色ものゝて也ものゝ
　　拾い細川幽斎

津田細江　津田と細江との間の川まで足郡界也むかしハ一名なりしを後世わかちて二村の名とす湊の舩泊る處也昔ハ川にそひてつゞき舩の出入もありしとかや
あつまより近江に同名あり いづれか是非をしらず

続古　風吹ハ波やこえんと思ふらん津田の細江の浦わたれぬ　赤人

続拾遺　五月雨ハ津田の細江のみをつくし見えぬも深きしるしなりけり　光成法師

津田穂蓼　津田の宮の北二丁斗にあり夏三伏も生茂る三伏蓼とも云 仁治二年七月始めて書写山勅使に献せらるよし舊記に見へたり他所へ移せバ蓼の葉もかわる

宅倉村　亀山の北にあり推古帝十五年當國に宅倉を定め日本紀に見へたり是神祇を祀る神戸を定めて神供の米を献さし宮之倉の蔵之此村にありて名のこせり

夫木　ことひうしのみつけの酒にさしむかひ麻ぬの袴にさふらぬりの　下略

(山)　小山より廣峯の ふもとにあり

若一王子権現　書写山村にあり

銅山古坑　八重畑村山中にあり 始め年暦未詳 後に本田美濃守の時に繁昌して又絶たり

長谷山観音　八重畑村にあり 先国分寺の奥院なり

豊國　聖徳太子 豊国ともいふ

星田菩清水　庄村の北にあり十余の其一ツにて星田乃庄之水室として夏日にも下流れ奥氷し 若の語りし然地之なく村名となれり

庄山城趾　國府の二男 小寺加賀守 赤松貞村 山名宗全の臣 原伊兵郎 也寺貞能子息 政範 山脈左衛門名種所なり

白國大明神　國衙庄白國村にあり　祭神 國方姫命 當國に之宮と称し 延喜年暦

洋りうしく　延喜式神名帳白國神社 これなり祭神異説多し　○峯相記曰此宮白國大明神ハ日域開闢より霊跡之と申傳ふ人皆しる所延喜式読み開化天皇第一の姫宮ともいふ或ハ加茂大明神の餘流とも申 後鳥羽院の御宇に安濃川に御幸あり

飾西郡國衙庄白國村の社ハ廣嶺山神宮柏侍に白國新羅と云ふ若廣峯牛頭天皇新羅より御幸して新羅より渡朝の附ありしく此地にいまに存す白國と云

石室　廣峯麓 白國村にあり深さ八間口二間中に石の棚あり 長一間半巾又尺ばかり先古人の石櫃ありし村の一名唐櫃谷といふ

高松寺　白國村にあり 真言宗本尊聖観音 後冷泉院の御宇當村の多護白國禅正左衛門為建して寄附物多し

長者屋敷　白國村の田中小さき森あり て除地なり由緒詳ならず

人見塚　同所にあり 之き塚之

大歳祠　白國村にあり 雅楽霊神

亀井寺跡　同村にあり山陰中納言鐙子のよあるに建立す

老僧岩　一名弁慶岩 ... 寺の下にあり 飛とんで多く

古子堂　同不念佛堂の上にあり古子の古跡にて古る谷へ人共と芭蕉翁の風羅堂とも云ひしを素風羅堂と西の谷に新に営る所なり

風蘿堂　義塚の傍にあり 洛東園阿風羅坊とって遷してぞ世代翁の遺蹟
芭蕉翁本像左右惟然多山乃画像あり其外翁の遺物

真蹟　蓑 舊襟本錦 葉之　笠 反古法照 引細提絹　杖 三尺五寸斗　袈裟 一名富士袈裟といふ ここぞ紙綱結目十二　紙硯

現在二十三ア
中三十三ウ

紀囊 麗き本作

柳風蘿堂ハ惰性天石山乃禁ハ上て年
慶石より百歩ばかり上なるなるにあり其側をしゝ花桜森と
〜て種乃孝幽みきゝ久本草義ヲ涸水巳方ヨ流を後い廣岸の社
臥書寫山乃山寺連り若ハ橘麿浜飾麿宮師浦沖の中川
〜うけ島湾浦島根い本の向〜ヨ〜ヨ〜尤ヨ市川右ヨ妹尋川
磯ハは客乃両図と滋〜ヨ紀乃し〜も此一室ヨ傍徘り〜長
安名利の塵と離ヨう

芭蕉翁笈塚 惰性ハの禁 芭蕉翁ハ伊州の産ヲて上野義堂ヨ仕へ
て松尾甚七郎と号し壮年乃比官と辞〜て江府深川芭蕉庵ヨ
止住〜名を桃青と改め専俳諧正風体を紅て世ヨ唱る元禄二年
弥生の末奥羽と紀御〜加賀国ヨ入北枝ばかりを伴禁〜て孤弟の
方へ〜命乃別ヨ菅笠蓑ヨ已ゞ数日と添て翁ヨ貽る
卯辰集
白露もまぎれぬ蓑乃紀清乃郎 北枝

増位山
隨願寺

南山の碁
碁盤石
桂東郡の碁
碁所市安の石橋二基
又一基政紀巳方碁盤石
又本堂の前に桂東
武郡の碁必決の碁石

そなたより山蓑を着て大和路を巡り浜摩明石を遍歴し近江の石山乃逸する幻住庵の幽棲し武い叡嶽の探索する金剛寺のたせ弦庵の寵を落湯白山通仁愛庵の也し又図書風蘿坊の居と構へく山蓑蔵乃調度いる落人惟拙の譲りて元禄七年十月十二日雅洲のまうぬ其後惟然坊朝夕のたそもの蕉の教るを和漢と東奥を折るして宝の閑居し蕉乃彩遠物のとい橘塵の千山へ附属しぬ千山昊を携へて姫府の帰る山蓑を祇と塚と築き碑と造立し 委しくハ丹頂堂の雪舎集の見へさり 中央芭蕉翁左惟然右千山 なを三尺堂石三尺の碑石う 彫る

姫府後の数るを浴る其碑洛三日

そせ紙素や風う盆をくも名を象世

今茲己巳之秋我 候新入城府聞政之暇迴駕于此
増位山隨観風物偶溪邊探蕉叟之遺趾而裁俳諧
濟替者流寒爪傳聞其事仰望德澤景慕風彩竊冀
奉其 雅章以置於不朽武備可之遂叙其由以貽
永年云 寛延己巳九月中澣

増位山隨願寺醫王院

白国村そくの方
寺傳曰 古之自像と巖之構し浴ふ今の古之名これなり其後聖武帝天平七年
傍正行基菩薩の出母村之帰りし附系師の示現を蒙り即勅廷之奏し梵宮
を彫之建て自系師如来日光月光十二神将の像と刻て安置仁今の本尊也
なり之之祇肖像と勝中真の用ゐして奥院之安置仁附法相宗こうしが
行基の孫弟法勢法師博識みして法相の蘊奥を究め又止観の扉之入て
聲聞獅義志の後学と如其後仁明帝乃勅を受て大衆法相を草之名宗
とし播位山法祇寺醫王院の勅号と賜へ山附法燈燦はして封境廣大
伽藍山麓こうり後名服院古御門の両帝祈願之為崇篤くして最勝講を
修行ひる星霜ひて天正年中別名長治の兵火之罹り堂舎烏燼と成
衆僧僅之中る二服士十二神将及び行基の像と奉して姫路の西嵐山
之遊る今聖寺山 月十三年秀吉之祇ひ寺院を四地之修復しへ乃おく
備堂寺院と建立仁先より番烟仁方之業仁義高之奏くして

有明峯 当山東の峯陵内之峯之名を称吉作宮を花 安藝法印寄跡 有明のやうり仏表新と号仁聖徳太子の墨と称ふ塔を建て三天蔵秀如の像と刻(仮表吉の峯利之名ほど)

弥高峯 姫路城の北一里斗之あり行基菩の窓跡ようこれと奥院ようこ
松茶花舞ようれを載れ摘塵を枕飾東郎こん

細石のいとをとうれば摘塵なる弥高乃峯いやるるよるる

廣峯牛頭天王社 牛頭村上方にあり古昔建立せり 祭神素盞烏尊 天照神 神兄弟 峯にてきこえれい頂上にあり

三大神八王子 摂社 白幣社 古極の 軍殿 太已実命 地養祠 穢民 ねの来 天社

又祠護王所冠者殿九部の神 完名之齒社の御 法座 聖武帝天

平五年三月十八日吉備公 朝の御 地に於て素盞烏尊乃神

詔を蒙り京師に還て上奏し勅をなしく因六年に神社を造営

以其後国融院天孫三年西峯より廣峯に遷し給る 厚后貞観

十一年山城国に遷 ○三代実録十三 貞観八年七月十三日

授播磨国委位速素盞烏神 後五位下 ○峯相記 洛の祇園遷

もとゝなり 九部の神 完八名 社の後に あり 数九ツ 元の上に 文干の絵 とゝきこう 巻いるる用 元のもの 甚秀之人 くこれと 称し 完 数 残 を 数 に

廣峯古城 大 社 元 廣峯 に 遺 跡 の 城 るい 廣峯大別当昌俊之臭 祖い 天津 義命

の苗裔 に して 廣峯 用 闘 より の 神 職 之 常 に 武 勇 を 励 み 兵 術 を 好

で 建 武 の 乱 に 足 利 に 属 し 京 合 戦 に 数 度 の 勲 功 を 旋 し 故 軍 家 の 感

賞 を 蒙 り 新 門 拝 領 して 内 に 社 檀 に 於

て 国家治平 武運長久を 祈 て 神 に 業 として 軍法 陣 に 精

心を凝し 其上 社勢 職 と 兼 帯 に 因 茲 一 山 乃 社 人 兵 器 と 揮 ひ 闘 戦

の 勝 ひ を 考 に 依 文 明 の 比 赤 松 が 要 塞 城 を 築 く 附 祈 祷 不 怠 に 天 文

永 孫 の 比 中 国 に 足 を 赤 松 が 一 族 も 国 郡 を 争 い 神 西 永 良 城 合 戦

に 廣 峯 新 に 郎 兵 衛 乃 俊 俊 に 新 に 郎 武 功 に 依

て 歌 を 退 け 赤 松 家 の 感 状 を 賜 る 今 に 傳 来 せり

白幣山 廣峯の ちくさあり 神 平野寺 牛頭村 ある 古 い 寺 院 西 院 あり 寺 院 い 元 明 帝 の 御 祈

香 法 の 建 し ところ 西 院 い 聖 武 帝 の 御 祈 願 所 にて 建 し

甲山神社 延 来 村 に あり 神 社 八 幡 神 明 表 日 玄山八幡 玄山 村 に あり

中 田 家 造 営 100 の 栗 ところ 神 作 三 座

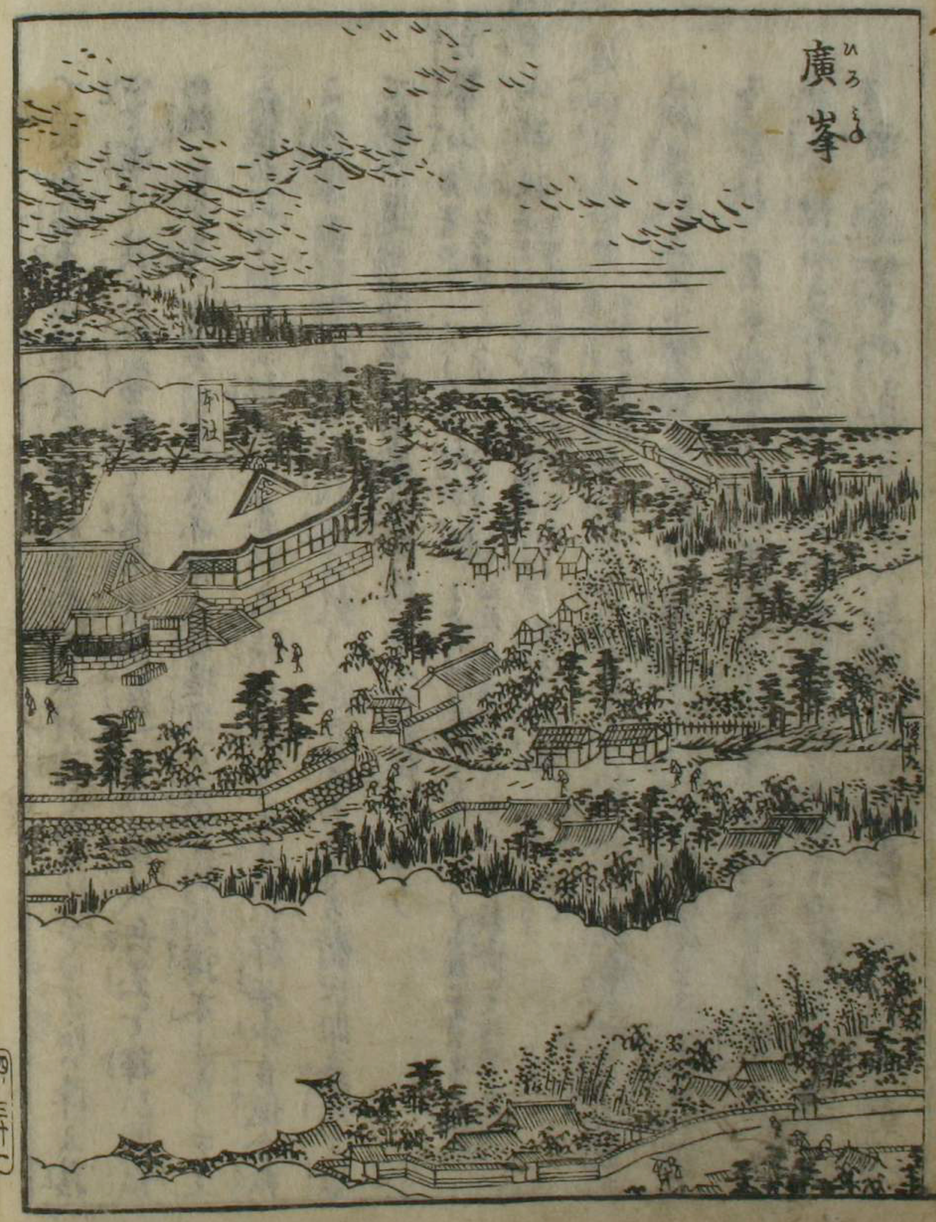
亀山寺 徳寺 亀山 村 に あり 西 寺 秋 寺 流 寺 紀 に 百 三 十 九 石 余 開 基 親 鸞 賢 人 より 第

八 代 蓮 如 上 人 之 実 弟 上 人 を 召 て 住 職 と 比 第 九 代 実 如 上 人 の 弟 庵 に 寺 称 寺 蓮 如

を 召 て 代 く 家 に 止 職 と せ し む 本 尊 阿 弥 陀 如 来 表 日 の 他 庵 に 祖 師 親 鸞

聖 人 の 影 石 に 家 住 上 人 の 像 餘 間 に 聖 徳 太 子 の 影 十 字 名 号 上 人

を 南 に 蓮 如 尊 中 真 蓮 如 上 人 自 画 の 像 と 安 置 に 小 に 神 拝 堂 祝 殿 に 堂


廣峯
社

社紅
檀廻
修繕之

御田植囃子

八日御神楽競馬御田植囃子

又九月二の午日神楽三基

毎日氏子の稚十月

十八日御神楽

月廿二日御潔

又毎月朔日神楽

若楽

摂州

若楽

内裏

楽所

こんを祥

又日毎

宝治延長の御神楽

御接物の神武

を国の人民

伊勢天宮の御四月

ゑ子へ子の代風俗

御紋あり次に集會所茶所經蔵には貝葉林の額あり其外堂舎荘嚴なり

今寺院の後に寺の亭の下に亀山の跡のよしいへり此寺元は英賀にありて移されしとぞ

寺伝云 此山の長くもえぬね引末を亀のかたちは名付そめし

笘編 英賀日記に日本條寺の西にあり永享十二年結城合戦の時赤松家当家西海の判定の上洛を防くとて英賀辺りて岳杣の嶺を敢て編しあるよしと云

高岳神社 蛤山にあり祭神進仁仲哀二帝武内之後宿禰道盡殺天皇幸代主猿田彦を合せ祭る宇宗道の表森の神舎人親王なり

譽田明神 英蒲田村にあり云

鞆田祠 安田村にあり祭神市杵島姫 此辺若宮森庚申の地蔵あり

黍田祠 延末村にあり祭神二座 此辺に長部森垂跡あり

手柄山 一名三輪山とも云 播多し 山頂に生屋社あり大己貴を祭る此傍姫渕蛍沢神殺坂地蔵云に鍛る刀初て手柄山と名付る是なり

今宿より十丁斗東之結城軍記に葛氏主水備後田富西十郎か道を変て遁て討死にと記す近年名を播磨氏重居って

八荒神祠 今荒廢して実法寺村本にと小祠あり古人シヤカウジと云

君居寺遺蹟 安室郷今宿村の字とぶ花山院行幸ましまして紀三井寺のうたをよし

三和大明神 三輪村にあり祭神大己貴命 手柄山三輪神社と額あり

御館 同郷にあり後醍醐帝行宮の遺跡とぞ

村椅兵主神社 辻井村にあり又射楯の神とも云式内今姫路総社に合せ祭る祭神大十猛大己貴旧は八幡宮に座せし也

御所清水 同村にあり帝の書写山行幸の時此水を潤進ありしと名付

手野の里 書写川の東にあり宿は山陰山陽の驛なり

俗傳に日本武尊播磨にくだりし時揖保郡欲山とのあいだに熊襲という賊二百九十人の属徒をまもし大物をと神顕ぐ

きるぐ喰うに熊襲が女房と見るうちに廿二才にして長六尺九寸大力十人の勢く武い人の衣服を剥き宝物を奪い是に依て天猿にかけ勅ありて熊襲を捕へ先此里にて手足切捨て後首を欲山のふもとにさらしぬるとぞ

夢前川 一名青山川 宍粟郡の山中より流れて書写山乃西をめぐり青山の東を経て英賀の浜より海に入又一流ハ青山の山中よりながれて夢前川に落合ともに海に入これを小塩川といふ

夫木
うつゝにはさてもいざ此播磨なる夢前川の流れてもきん　貴之

ありまの夢さき川をさゝろとき
星うきてもねるとは日のまゝ流る夢さき川をたれか渡らん　忠見

古今
夢乃夜の夢さき川を渡ぐても悲しき人のたのうよまさしを　言き

青山 山陽道の驛なり八雲御抄松葉集播磨国 山に入村中にあり是を小丸といふ

万葉
青山をよこぎる雲のいちじろく我と笑まして人にしらる　坂上郎女

御井隈 青山の西にありとく又ども云地名辞
かつて是を日本紀讃岐国記に日く青山乃村中の小石の小丘を云天皇十三年八月播磨国飾東郡人丈石の小磨とく大力者の奉くしが暴虐雑を路中の通行を妨げ

又高松の財を奪ひ王死に陸はざるものは小川又書目小野臣大樹を遣して小麻呂が宅を焼其時火中より白狗飛出て大樹をめざして追ひかかる大きさ馬のごとし大樹神色を変ぜず刀を抜てこれを斬遂に化して小麻呂の形現ぜり

青山祠 今祠なし 田圃にあり 稲岡 まらにあり 播府人丸播磨守たりし時 家に止住せし流といふ伝へり 淡陰澤○歌書渕

妻見岡○妻山 まさ人丸の遺跡といふ 稲岡社 青山にあり稲荷神なり宇賀魂神 俗に老人夫婦農業をなす神

飾西驛 古山陽道の驛なり 青山の中にあり

笠寺村古長秦武継宅 旧跡 聖徳太子に供奉し当州に止り余部の庄を領しける秦川勝が末孫秦武継宅に付て鎌倉に参居にありしが八月十五夜の月に逢て我を忘れ笛を吹しかば頼家これを感ぜられ播磨へ下し笠寺の地を下されける故に一義によりて碑を建てける今にあり

笠寺薬師 飾西村中人家の後にあり 此は実法寺にありしなり

英賀日記に村通妻白旗一首
聞よりも妙なる寺の光まぶ且猶稀の花さく笈も来けり

大蔵神 飾西村 實法寺 菅生庄今の観音堂なり 一宮神社 実法寺村中に社あり 今小祠なり

法傳寺 余部の庄蒲田村にあり 聖徳太子の御影もあり 又蛇谷門院の御影もあり

(濱)

網敷天神 津田村にあり菅神西遷の御時家に船を寄し綱を以て棒を敷て其上に息憩給ふ 播磨記に曰く此辺天満宮の社多し然ども津田と浜の一とするぞ小松家寄附録に見えたり云云 毎年六月二十五日祭あり○縁起須々の網敷天神と同じ 古樹あり年号長久と見へたり又天形の古松あり○古画乃像記あり

加茂祠 加茂村にあり 天満宮 英賀村にあり傍に英賀彦社塩竈乃社あり 八幡宮 日吉を相殿に祀る 加古三年三木家先祖之

英賀城趾 英賀荘中濱村にあり 三木右馬頭通近の居城なり 家に八代相続して天正八年二月十三日英賀落城して一部 播州小市郎本の長三千余騎をもつて別所長治に与しける故に秀吉公の命として羽柴秀吉一族の甲を脱ぎ皆浪人となりて出にたる天正八年二月十三日英賀落城して 静謐となりけるに 又銭の名ともいふ宇に英賀の市といふ九日本紀に飾磨の市といふ 即飾万の市とみえたり 今村中に古城の出口の名あり ○英賀は三木通近より九代の間の城下なり

白牛 当村の長が家に唯雄と雌とあり天下の希物なり○近年江府岩本岩下某寺製の白牛碕玉祠丹といふ薬あり家に養ふものは其白牛碕の用をなすべし

簑寺 本名西田寺英賀村にあり 笠寺に對せし名なるべし 大樹清水 英賀の南にあり 名所にて清泠

(山)

書寫山王院馬場 田井村の南にあり○里諺に白河法皇書寫山の御登山のみぎりとぞ 車寄 坂本にあり ○白河法皇御登山の鳳輦をとどめし所なり 一丁二間の

芝生 あり 女人堂 善光寺落山如意輪寺といふ 昔は女人の参詣をゆるさず 引雲園 東坂にあり 紫雲堂 休足所なり

慈がし岩 其外希奇の文所の硯水池如意輪の樹は當山より西北八丁にあり

書寫山
王滝馬場
世尊上人

書寫山圓教寺 第二

第三

坂中の奥石砥石坂乃石窟に安置す

書寫山圓教寺　飾西郡坂本村の上方にあり天台宗

如意輪観世音　本尊の像　安置の地　西國二十七番札所

ちり　釋迦如来　唐渡那乃地　阿弥陀佛　奥の本尊安置　安阿弥乃地　清水　寺の下の方に飲りの所と表記と表記　粉河寺

一條院永延二年の草創開山は性空上人なり本尊如意輪乃像は性空菩薩

居のはじめ僥の桜桃の二樹あり一日天人降りて樹を礼し偈を作つて曰

警者世本如意輪観音有時後来教化赤隈社生松樂社一切衆生心所念　宣師其樹を伐て根株の地て如意輪大

悲の像を造りて長一尺五寸安置し給ふ者の命じて元亨釋書

しける像今後内に収む上人頌曰　矣而赤縞　開亭隠士　以之為樂　不羨富貴

性空上人　俗名仲丸　大中臣氏　橘善根の子　仲丸其初り後京時朝に仕る　時朝に　老人食

時平の孫　時朝嘗て一つの奇観を書て珍襲して家に蔵し官爵拝任する

毎みこしを視る仲丸は観を視んとすれども得ざる時朝に見あり

年十歳仲丸を呼び時朝外に出る紙窠にて密に箭を射く射

しる人者に驚き遂て遂に入道をとる不得已して破家

仲丸大きに怒る児童仲丸を呼て汝驚くなかれ汝を

俄る時朝丸に怒りて曰此観い裏祖鎌足連任吉の神に接りみい

代々仏人て吾に及ぶ汝家窮を破壊るい家の滅亡を招く邪神

りん其罪怪々しく忽ち首を刎ん仲丸大に悲しみ

愛心〳〵　附に年三十六　人乃ふらぐる日州霧島山に房に結び若干食糧を

志ざしれども常に面に微笑相あり日州に居る四年にして筑前

背振山に移り其後書寫山を開き寛弘元年三月十日に寂を九十八

歳まで三月十三日に至て法華を誦して

年八十とえ　伽藍開基記録書に同し

著聞集云法空書寫山の幸に対面の中畫工をして上人の像を

図せしむ附に山動き地震に法空怪怖す性空の日暮むるを

我像を写しむる所去り新に小き庵あり畫工をして図せ

図せば震動に驚き筆を落し墨を

信に今に空蒙にあり

○寺院日記山法空上人の徳を感じて寛和二年七月小仙嶺をめぐりして比叡山に移幸

まじまれ又其後長保二年三月五日寺て落葉の時上人か通宝山弥勒寺よましまれ
法皇僕へよりそぐよかの寺へ清浄の一日御逗留ありて上人の形状を託し又飯室の延
源が間和尚よ勅して像をうつさせ都よ還幸し給ひ画所長者巨勢広貴よ写せしめ図
させ奉る親王殿又を書し像讃右大弁藤原行成卿これを筆記す即當山よ在る
上人九十三才の像也又安鎮形者巨勢本像を刻で廣貴よ安置の開山堂よ在る是也
○後醍醐天皇隠岐国より還幸ありける時播磨国書写山へ行幸ありて先年の御宿願を
果さん諸堂巡礼の次よ開山性空上人の御影堂を開ると乃ち年頃秘し給ふ袈裟一領
を打て書写法華一部蘭ろを捧げる叡の瀑布にて縫ける衣の装束如意輪の像
又其他の五大なる其外上人さまざまの奇特に感じ給ひ御寄附あり○文明元年正月朔
日一山炎上○秀吉三木責の時登山

坂本城址 金部庄西坂本村ある 城主ハ赤松左京大夫満祐之明徳の京合戦よ武功
を旌し是より威風熾んにして歓楽の余書写の麓に平城を築き
是を御構へ御所ともこるる此時ね軍 普光院義教公 満祐が奢侈を悪給ひ
所領を没収せらるべきよし満祐之を怒る遂に源謀を企て一族を引
具し上洛し西洞院の弊宅に於て猿楽を催して将軍を招請し
公家武家の見物多きに兼て工ミのあるのれが入真の中に馬を放ち
座中を騒がせ其時満祐が家臣安積五郎教祐左馬介則祐と
立出ね軍を守護し奉る体にて義教公を弑し首を袖に包みて良

等の指せ帰りる暴悪無道いふばかりなし

水田城址 西坂本よあり 城主赤松左馬介則頼又ハ城主家則嘉吉元年
六月廿四日満祐義教公を討ましし後命全くして日本を離れ朝鮮に渡る

揖保ハ**稲穂**之 日本紀稲をイヒホと訓じ稲実の義に同し

川原村 吉田京村ある 山谷の間にあり **黒岡明神** 吉田郷京村にあり 備の楯鼓の京の祠 とらふ藤原貞国を祀る貞国ハ宍粟の人

黒岡天神 旧不よあり 天満宮を祀 **竹川** 吉田郷菱淵京の西に在 と因津神社よ祈願して退治し伏勢せをやへ不よ行き貞国退治として當国中山の時勝利

楽々天神 村にあり 吉田郷吉田 **楽々山極楽寺遺跡** 吉田郷吉田 村の北にあり **根本寺** 吉田郷西脇 村にあり

吉田寺 吉田村 にあり **楯岩城址** 吉田村遠法あり赤松刑部少輔則弘の居城也其後へ代お続て 一より高岡を領し給ふ附退城ん

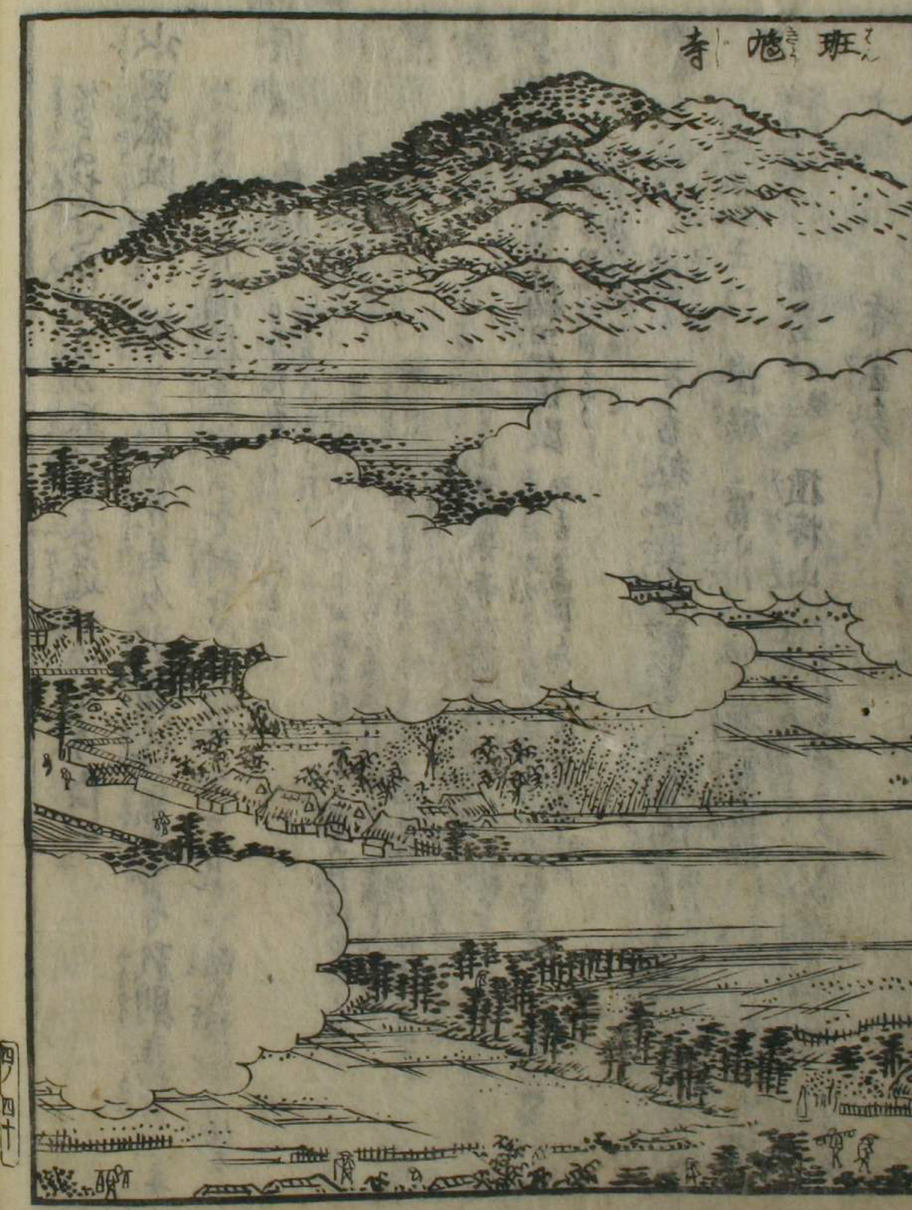
桜井清水 吉田郷黒岡にあり 播州十水の其一つ也

斑鳩山斑鳩寺 寺領有 天台宗 **本尊釈迦薬師観音** **三層塔** 釈迦仏舎利 輪柱に納む **弥勒堂**

山王社 **仁王門** **鐘楼** **富小川** 仏殿の京 **聖霊権現** 太子良の影をまつる **太田明神**

鵤よ大腹を掛 境内に二丁あり **昭堂** 太子十六才の像 **檀特山** 寺の南十町余丁の山と号く これ大和の形也 **駒繋松** **蹄石** 太子の遊蹤

七橋 此外寺宝多し


班鳩寺

日本紀に聖徳太子政事を摂行ふに佛道を興て國家を補佐し給ふ推古帝の勅によりて十二年大和の浦の宮に於て勝鬘経を講じたまふこと三日に法華経と圓基宮に講じたまふ天皇勅義を信受し給ひ御感の餘り播州揖穂郡の水田百町を割て給ふ即大和國斑鳩宮に納る其後山地の建立ありて斑鳩の荘斑鳩寺と唱せる御自画世五女の歌い法華経講演の体相の尚寺第一の名像として名堂に安置若い諸堂備備壮なりしが天文の兵火罹て其後の再営今の如く成就せり

斑鳩寺 長陽往来 ○本紀に彩色の義貞赤松を責んとて六万余騎うていろがの寺まで寄せる付の弥勒 石見荘糸井村 赤松園心寺かけ合をろがありて十余日過ぎしと云 糸の井 石見荘糸井村 よあり清水 廣山郷中 阿宗神社 武内宿禰廣山荘阿宗村にあり左の口上代に之国山にあり 例祭九月十五日

松尾山観音寺 日荘松尾村にあり 八幡宮 廣山村 釈迦寺とも云 よあり

小山田を郎高家の川書変地 廣山荘之国村の里長の所彩記之月々くり左本紀には只播州とのこのうて郡邑と記ること幸い慶安塚の歌ひに記せり 多聞院

金倫山小宅寺 斤山村 寺言宗 本尊毘沙門天

乗願寺 門前村昔大寺跡にあり大地図所出石の地なり近年宗社大徳寺より企あり其せ〻き給ふ小屋を免許あり発信一人居役を

揖保川 揖保東西の郡を網流なり源は完栗郡多東より出て伊曽三谷又十波より井溝酒門 源谷郡公文川完栗郡より落合て長さ十二里

古居 細干郷東西二村ありて東西の間に若八にありて転の河ありしが今ありなし 拓女ゑぐもあり 日下田の南にあり墨滝 鬱見 日下田の南にあり墨滝 蓮仲の坂なりとい伝ふ

宇須嶽渓祠 細干宮津八幡宮 福井の左宮内村にあり 福井の左朝日谷村 朝日山大日寺 よあり 鶴丸山大覚寺 細干 神の渡 真言宗

林松寺 上と日ろにあり寺内に古松あり樹繁茂して枝葉多根の松に似たり 傳曰後醍醐天皇 丁村 福井の左より村 朝日山の南にあり

ちく〻丁のもり十ち村に撰生名を内すや山附人別に銭八文ずつ

丁村より名あり名ゆい郷下ちらいて十六より六十までの者を人数ようしす有 ○村中 池上寺薬師あり

みつき物をこぶよりとりて文にみまの里人ひとをひよりり

此村の後中二万郷とよめるんよりろり滝に出たのこ

所名

陣屋 沖須村摂津川川尻ニあり九艘舟の入川あり

化粧坂 新屋敷にあり今絶て屋敷の名のみあり

家島 播磨郡ニ屬し八雲神社一名御牧の浦此島ハ播南の陸地を去ること四里代の牧と

西ハ三里武ハ五里ヲ〳〵上ハ養源寺より下ハ流家浦まて東西八里

南北三里其間ニ大小の浦〳〵二十餘箇所都て家浦ニ連る淡奥松浦

ニ相似たり○家浦の家と云義ハ江湾三方ニ山ありて敵ニよりて

室とつくる也因室ニ家のみ〳〵之船の泊るとき室ニ家とは

いとりいるる洪濤大風ありとも船を室ニ泊む故ニ是より般舟と

も出せりされども船ハ島ニれば千帆一附ニ聚り一附ニ数ひ奥

の群るるのみて多し故ニ居る者多くハ漁者之漁ニ天然の泉水ニ

居るゆゑ因縁集ニ繪浦とつくハ用ゆべし

家島神社 家浦にあり延喜式神名帳 祭神猿田彦命 元慶七年九月九日強

名神齋國大社二十記座の内之

座〳〵云人白髭大明神と稱ス。天満宮 家浦天満浦ニ

赤坂清水 家浦阪ノ下にあり俗ニ法道仙人汲給ふ〳〵と

旱天ニ涸ル霖雨ニ溢ル浦〳〵ハ家浦の名あり

山王權現 家浦坊

細于
宇須岐津
八幡宮

祭神應神天皇
正永年中若狭
助氏郎よつ山者
再營ゝとそ
例祭八月十五日
社領を陽宮山
名覺淺

家島
家島の名よこそ
みるし海原を
あの意
きつる
妹たつ
彩くも
漁人石和
玉吟
明ぬとや浦の
家しま
かくあらう
まさ天の戸か
月をさしる
宝治
宮浦
番所
天満宮
宮浦
宝治
宝治
宝治井の水
宝治
天満宮
宝治山
浦

丹羽島

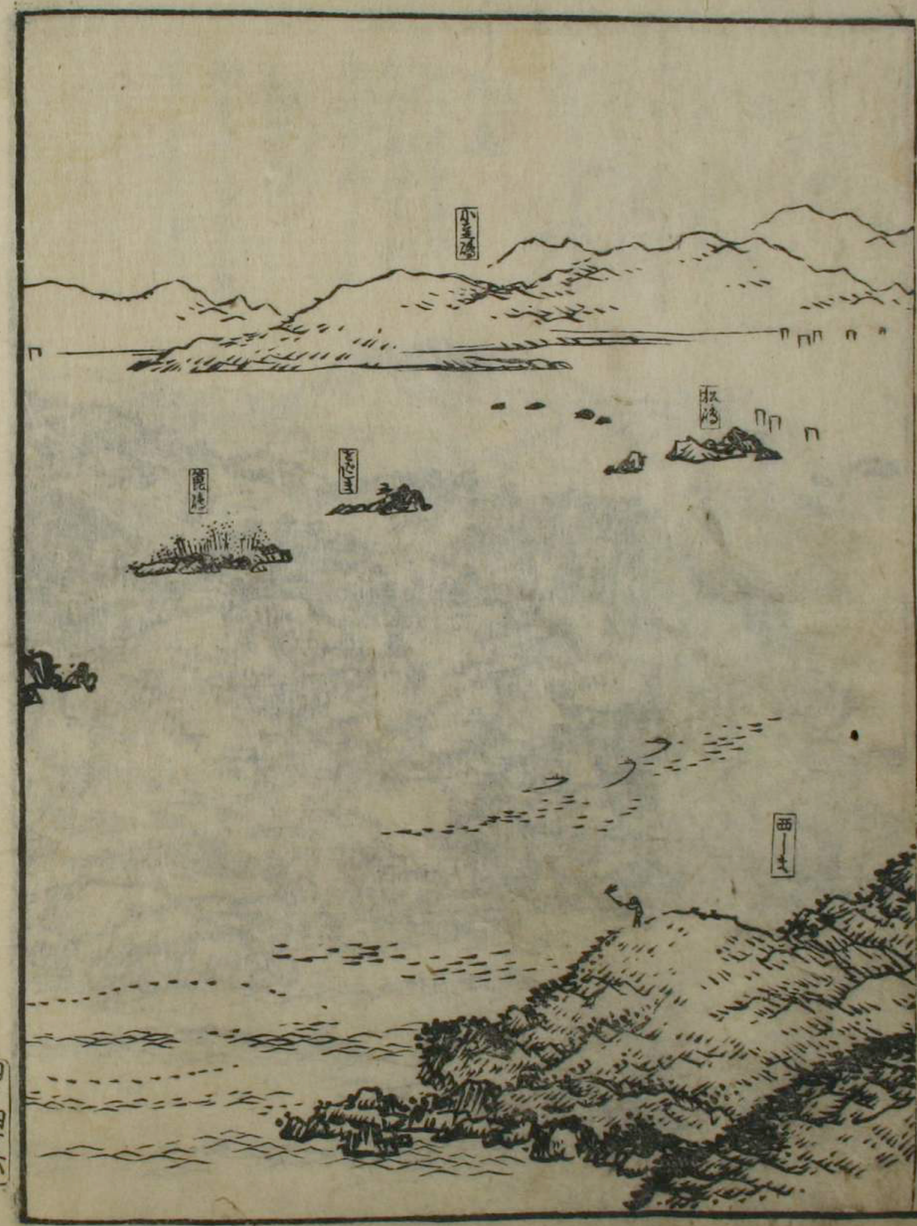
羽島の南にうつびて大之
人家臣多樹繁く
生ひうり番人二人あり
ほあめ鯨松ちくく
恐れと沒り蘇食
く傾く

松島

家島南三里よりう
壁句の馬多し松
島牧島の沖うるや

鞍掛島

丹羽の東少れる小島
かうらみよりて名つく


小茅島
板島
鏡島
そたこ島
黒一本

楯ケ島
丹奈島より
波の越山を
坊勢島
坊勢寺の送暦
湯風流の御ゆう
元亨七年比叡山
衆相違者是
新山修験
附まを創ー
四証方ろ
板島 佛岩
八畳岩
元禄樽西郎ゑ
海中ーあり 仮屋村ー
行とる日二丁ゑ
坊勢島
ろ島
ろ島

観音崎　家傳あり佐久法道仙人文日寺の縁起書を刻し霊夢を以移ひし至とぞ

長浜浦　家傳あり播州より

山

相野　大市郷相野村飾ノ伊保の郡なるべし

白鳥の岡　村の南にあり　石鞍　鞍の如くなる巨岩の石に彼岸へ流れ出て今小石を寄して造まり相神の境内あり

○或人云　昭和年中に神武天皇を祀り奉る　破磐神祠　大市郷西服村にあり破磐を神と仰ぐ元亨報書に大なる石と破て変成

風早嶺　伊勢村の東の峯　古跡仮覧曰此峯の岩に水入六寸入べき穴あり

今登りてこれが其穴に入る風早より小又六丁の峯つゞき大巨岩の頂に松生ひ其岩礧砢として上に又岡高きに松の生ひ出るは其穴のあるやあるべしされば昔より此風早ノ宮と云ふや

尚考べし昔なべて稲生出るとなむや此岩なるや

稲根　大市郷峯相山の麓に山宗神天皇十三年九月番稲に芝生ひ出るとなれと上奏諸国に仰べしと命じ給へり○但し此の国に又稲を種として諸国に仰べしと命じ給へり○但し此の国に又稲を種の国号の流なるべし　播磨国の郡名を悉く考へるなり

揖保の稲穂なり印南の稲目なり播磨国風土記に云ふ

甚上品なるなり世に知る所の稲とイと訓るなり日本紀神代巻

へるなり延喜式粒と郡名より書なり

峯相山鶏足寺跡　村に村より十丁伊勢村へ弧の不の岩石多く村の西に西播磨一の伽藍と天正乃

始なり諸寺相踐七八坊ありなり小郷民の修紀を焼亡

峯相記と云書あり播州国風土古跡と云して絵図寺の僧の著

作之紀堀今と中なる大門の弘上伊勢村なり　大巨岩　峯相山の西南の風早の岩

大師村　延喜式を計者接摩調池田加と又し山地なり

大納言伴善男墓　上岡郷伊勢村より巽の間焼一大瓶のなり山上其跡今あり　陸倉山の麓池中なり

て大納言なり　傳曰善男郷の法和天皇に仕

年六十其附峯相山鶏足寺繁昌乃附て善男なり

草庵と結び居し其地なるべしとなり善男乃まい中庸豊

嫉妬実清廉など五人あり宮居拾遺に善男焦天門を焼る

事及へうけ申国史よも及西墓い後世伊氏り人実みありて
建うるべし

法善寺　東か秋寺流之老僧若男ゲ未詳の
お使とつうみ外ま西廠とう人法あり

按坐天照神社　伊勢村まあり延喜式神名帳ま出
古人伊勢神明宮と称ル糧ル即揖保郡　社記曰安閑天皇元年此
地り縣ま飯粮といひ人良田に拾町天皇（歟）しまさ人の
名と郡名ま呼ぶ云　後世二郡として揖東揖西ふ位ひ流語
ま人日本紀雄波と及ふ橋卅みあり

神坐窟　按神社の山頂まあり天狗窟之
甚廣くて里俗ウトロキ云ふ　岩屋赤松者乃城趾　岩屋の山の裏でき
みあり

一筋川　伊勢村の北流る川ま名今流之
流ま筋くま独女郎川ともふ　大坂村　伊勢村の北の方り山岩甚廣く
溪水九州まみるれてあり

林田陣屋　貴茅川西岸林田の左構居村南ゆ丁
東西弐丁斗凡町の長さ十又六丁あり

祝田神社　武内之林田の社ともふ　祭神高樹加義神義都波女神　林田侯西吉松山乃
猪熊の大宮司其住地之
日本武尊熊襲及び出雲の名師ふ紙と征伐し附樓吉伝の
神乃風雅を山三神ま祭ま祈ま祈武揖元
神とふり而を祈るゆは水徳乃神乃れいかり

水波女　妹脊窟　悪松原　白毋水　殿守梯
うけひつむ山しうへ乃梯案い殿と梯ん守とそ　春房
ちまま田の森乃梯案ゆをうちて悪神とそやゝ人ま多　久老
境内ま丹楓龍眼木の大樹あり　建部内近頭源政宰の歌ろ不
武日丹楓の和歌　宝保中関東に載ゆ今ま大木之家大ろ祖記又す綿の葉
のゝし有ま日本のうへで本に楓の家ま有ま詩ま丹楓と称ぶ人ものの老人
琵琶山　林田社の南まあり　八幡宮　無圖ま八ぶとあり四圖人多ゝく此社（素像を
あり近八ぶと八幡の神東郡八幡村乃八幡村乃八幡ぶ　去る遠ゆ日六九谷村の向うそ八ぶと村ま
陰乃岩屋忘水　老姫の南まあり
出石志摩
ときは木の陰のいと屋のまもと仏の宮と光ぬ名ゆ　名歌
松山城趾　林田左松山村ゆ在笠長門守村氏　岩城乃永心年中赤松政村実為此
新宮陣屋　宮内ま
みを年　山陰道飾西より家ま つぎて佐用まうつる乃川より一里斗天正元年
上月城実の砦寄吉嘗く家ま
張藤雅次墓　月村伊福寺まあり備前の長之決即光源門ゆ人
岳報運送のゆま国州ゆ跡乃庫後亀山ま隠ゆ

窪山城趾　林田庄久保村にあり　谷沢甲斐守郎國政これを
寿永元年平中赤松政村　城陰に
佐見山　郷にあり

たまもかづいとりてたさまに　さくれのかしのうへきかとなるそしやや
郡抵山神社　沢田村にあり　抵山と白檀の樹あり　とそ神の森　沢田村の
峯相記に八幡菩薩あり　逢にあり
嶋崎　鶴の形に似たる山之其尾嶋
鶴に似たる山之名とし
城部彈尾嶋　城部庄本保村　山脇にあり

古へ城部細川の邑として冷泉家世
々の系地之　今も細川にあり　小坂村中にあり　皇大后宮古美後成の卿女の譲とて
播磨國城部の庄にて人百抵人知り是を地頭の妨げ
多く行りなれば若武部へ来る所伝はあり
らせ給ふ名
君ひとり絶るき麻の数をとてまを
泰時久し
よれ中の麻の絶ずあり心のまもりのまもりして　彩勅撰
と伊後よも及び北一ケ条の地頭の非法を皆ごとめられ

其後神中の清水をこしらへ
ちかしとは北の中の奥おやの清水をこしらへ　彩勅撰
と詠ぜられも其城部の庄へ下られ名歌なり
奥書曰　阿佛の安嘉門院の御所に人家卿の息女家の室之云遊五
人なる氏なる数なる歌　はしく後刑繁して其所伝のみる稼倉へ下られ名
紀行十六歌日記なりあり
拾玉集曰　大納言政為　実家八世の孫　弥生の比播州細川村へ下向城部
庄南社へ参り名抵神宮寺にて
○播磨名抵神社　抵田村弥のなり日庄なれは抵神とし人名れ
あふぐそよ三十年ばかりと隔きて抵神の宮恒持ぬ数を
三坂の社にて　人ゝ三坂とし人名なし　小坂神坂のみ社とそのべきれ　抵名う
うゝとよ三坂の松のゝもろ縄めぐりあふを社命ながきも
二月十日此所にて身まうる歌のこと三十六年よりは抵名とし
まりぬとあり抵にて墓所に参り思ひつけ名
うゝにて弥生の宮と慕ひ来る苔の下に我や朽ぬん

むかし[illegible]あり[illegible]石崎村のあり社屋を作る石岩窟しまべろ

十三世のまり住し[illegible]奥源く殘るも滅し柴のり唐

政為下白の附の徳人の[illegible]

亀ヶ山 獄部名係こあり 赤松右塚北半ち

唐猫谷 [illegible]の谷入

花垣清水 獄部唐佐賀村こあり 十水の其一ちり

播磨名所巡覽圖會巻之巳終